

# 非核・いしかわ

事務局／石川民医連労働組合気付  
〒920-0848 金沢市京町 28-8 TEL076-251-0014  
郵便振替口座 00760-0-15689 会報込年会費 3000円

非核五項目

- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1面	オバマ大統領は広島に何をしに来たのか？ 白崎良明	3面	2016年平和行進 各自治体に協力要請 原水爆禁止世界大会への代表派遣を！	6面	会員リレーエッセー：小牧純爾、島隆雄 独標より：新顔番号カード 新保美恵子
2面	オバマ大統領 ヒロシマ訪問の日に 原 和人 非核石川の会第28回総会を開催	4面	被爆二世のつどい・報告 核戦争を防止する石川医師の会総会・報告	7面	編集室より
		5面	市民連合大集会／山口二郎さん講演要旨	8面	被爆者が描いた体験画展 中田喜重 絵手紙コーナー 坂本朋子



米国大統領の「黒い靴」を報道するTBSテレビ

## オバマ米大統領は

## 広島に何をしに来たのか？

白崎良明

オバマ大統領の広島訪問はおおむね、歓迎されていた。私もプラハ演説以来、具体的な核廃絶の動きを示さない大統領が、退任前に何らかの具体的な提案をするのでないかとひそかに期待をしていた。

しかし、全く期待を裏切られ、憤りさえ感じている。ラジオで大統領演説冒頭の「Death fell from the sky」を聞いて擬人化された原爆の表現に怒り心頭。国際世論は核兵器の非人道性を認め、核兵器禁止条約制定に向けて具体的な交渉の開始を求めているが、演説全体は極めて一般論で、核廃絶の具体的な決意も示されず、安倍首相の所感を含め、日米の核抑止論の域を出るものではなかった。

広島在住のPANW（核戦争に反対する医師の会）の会員からの情報によると、岩国基地で大統領は海兵隊と自衛隊三〇〇〇人を前に、「日米同盟はこの地域や世界の安定に欠かせない、繁栄の基礎だ。広島訪問で元敵対国が単にパートナーだけではなく、親友、最強の同盟国になれる」と述べたそうだ。これが本意かもしれない。

五月二八日読売新聞（電子版）によると、原爆死没者慰霊碑前でも、大統領に帯同した軍人の足元には黒い靴

## 花鳥風月

初の選挙権の行使は七五年。四一年前の学生時代に、練馬の投票所で投票した。渦中と同じ都知事選だった。誰に入れたかも明白に覚えている。その後その権利を自ら放棄した記憶はない▼振り返れば選挙の度に色々とその位置づけが語られるが、今回参院選は殊のほか特別で、三〇年に一度の重要性を帯びる▼退職を機にご無沙汰していた旧友を廻って思うことは、人の意識の変遷である。正義感に溢れ理想に燃えていた若者が、様々な経緯を経て辿り着いた現在の意識。その在り様を容易く批判する気はない▼ただ私は、その時代の諸課題に立ち向かって、苦悩しながら歩み続けたか否かが、隙間を生じさせると感じた。意識とは、その人の選び取りの集積結果の反映であろう▼『威張らず媚びず流されず』、常に人の弱さと「たたかい」つつ生きることに、怠けたがる意識を眠らせない唯一の生き方であろう▼青春の苦悩の克服の経験は、何十年経っても意識を若返らせ、歴史を前進させるエネルギーに転化しうる。その覚醒は「現実主義とのたたかい」に新たな地平を作り出すことになる。いずれ成し得ることではあるが、早いにこしたことはない。

(中)

が置かれていた。靴は「核のフットボール」と呼ばれる機密装置で、大統領が米軍最高司令官として核攻撃をいつでもどこでも認証コードで身元を確認し、国防総省の軍事指揮センターとの連絡を取り、「一撃で米国の全ての敵を破壊」、「特定の都市を消失させる」といった攻撃手法を選べるそうだ。

この二月と五月には、核兵器のない世界の達成と維持のための勧告意見を今秋の国連総会に提起する国連作業部会がジュネーブで開かれたが、日米両国は参加したが、時期尚早だと反対意見を述べた。

今、最も重要なのは核廃絶に向けて国際的世論の結集だろう。この四月

から、日本原水爆被害者団体協議会の呼びかけで二〇二〇年に向け、核兵器を禁止し廃絶する条約の締結を求めた国際署名が開始された。今まで以上の取り組みで応えたい。

(核戦争を防止する石川医師の会  
代表世話人)

## オバマ大統領 ヒロシマ訪問の日に

原 和人

オバマ大統領が広島を訪問した。現職のアメリカ大統領が広島を訪問したということに対して、心から歓迎したい。



## 故清水正明医師の被爆絵画シリーズ⑩再掲 相生橋八時十五分 人が降る

8月6日 午前8時15分少し前、相生橋の上を1台の軍用自動車走っていた。その後から荷馬車が1台、そして歩道には仕事に急ぐ人々がいた。

ピカ・・・ドン・・・一瞬 人も馬も車も橋も世の中すべてが青白い閃光の中に消えてしまった。そして車はペシャンコになり、馬も人も川の中に叩き込まれていた。やがて空中高く吹きとばされた人間が空から降って来た。

彼は、「空から死が舞い降りた」と述べた。彼が、文学者だったら、素晴らしいスピーチだ。でも、彼は、アメリカ大統領という政治家だ。誰が原爆を落としたのか知っている。

彼は、戦争の愚かさを説いた。闘いではなく、話し合いが大切だと。彼が、哲学者だったら、素晴らしいスピーチだ。でも、彼は、アメリカの大統領という政治家だ。戦後のほとんどの戦争に、アメリカがかかわったことを知っている。

彼は、「核のない世界」を実現すべきだと訴えた。プラハでは、「自分の生きていくうちには実現しないかもしれないけど」と述べた。広島では、せめて「自分が生きていくうちに」と宣言してほしかった。

彼は、アメリカの大統領という政治家だ。ジュネーブで行われている核兵器禁止条約の作業部会に、アメリカがボイコットするのを指示しているのは、彼自身であるのに。

(非核の政府を求める会常任世話人)

(編集部より) 上記の故清水正明医師

の被爆絵画一三点は、輪島市教育委員会が所蔵しており、本紙に連載しました。

輪島市は毎年八月にこの「広島原

爆・被爆絵画展」を開催しています。

## 非核の政府を求める石川の会 第二八回総会を開催

総会は六月一日、近江町交流プラザで開かれ、第一部の総会記念講演は、石川県宗教学者平和協議会理事長の河崎俊栄さんが『宗教者と核兵器廃絶運動』と題して講演され、平和の祈りを行動の波に変える宗教者平和協議会の果たしてきた歴史的役割を、自らの歩みと重ねながら詳しくお話され、参加者に感銘を与えました。

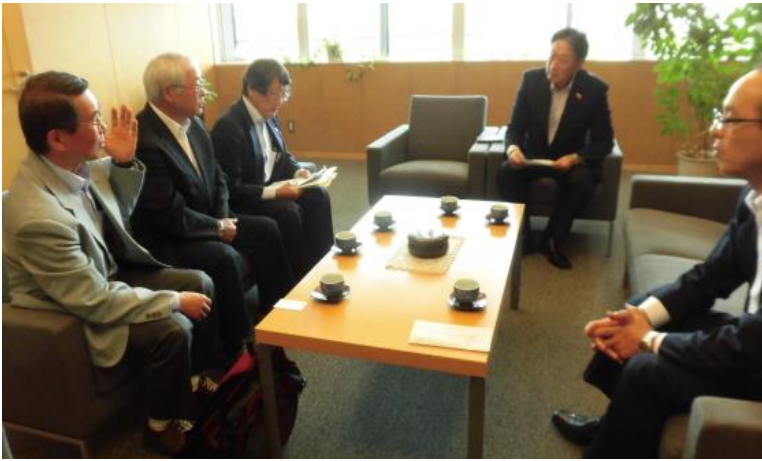
\* \* \*

第二部の総会議事に先立ち、本会の井上英夫代表世話人の挨拶の後、納口清隆原水爆禁止石川県協議会代表理事、西本多美子石川県原爆被災者友の会会長、佐藤正幸県議会議員が来賓挨拶されました。議長には尾西洋子さんを選出し進行了しました。

総会議事では、「会務報告」「財務報告」「役員改選」とも提案どおり承認されました。

(中村昭一)

◎二〇一六年度活動方針の要点は次号に掲載します。



早川彰一野々市市議会議長（右から2人目）と懇談する訪問団

### 原水爆禁止国民平和大行進 県内各自治体へ協力要請

内藤晴一郎

今年の国民平和大行進の県内自治体へ協力要請を五月一六日から一九日まで行いました。今年の訪問は、石川県通し行進者の奥護さん、神田順一、非核石川の会事務局長、池田治夫石川県原爆被災者友の会事務局長、内藤晴一郎原水爆禁止石川県協議会事務局長の訪問団となりました。

この訪問は国民平和大行進と原水

爆禁止世界大会の成功のため、協力金ペナント、被爆者が呼びかけた核兵器廃絶国際署名、被爆者援護連帯募金、首長メッセージ、平和行政、原爆展開催等を自治体に要請することでした。

#### すべての自治体で

#### 「原爆と人間展」の開催を

今年の重点は、「原爆と人間展」の未開催六自治体に開催を要請することになりました。

「原爆と人間展」パネルを三セット用意し、未開催の自治体にお預けし、行進団が訪問するまでに開催していただき、六月に平和行進団が訪問したときに返却いただく予定です。

穴水町、能登町では快く受け取っていただき、開催することになりました。珠洲市は一応預かって、検討するといってお返事でした。羽咋市、宝達志水町はパネルがないため、平和行進後の機会に開催をしていただくことにしました。

同行していた池田さんが、パネルをもう一セット用意できるとのことです。翌日、川北町に要請し、開催の了解を得ました。この取り組みにより、今年中にほとんどの自治体で「原爆と人間展」が開催できそうです。

#### 県内全自治体が

#### 平和首長会議に加入へ

もうひとつの重点は、私たちが長年取り組んでいる平和首長会議の加盟促進です。非核石川の会のアンケートや取材活動を通じて、ここ数年で加入自治体が着実に増え、未加入は加賀市、能美市だけになりました。

今回の訪問では加賀市、能美市とも今年度中に加入の意向を確認することができました。近いうちに県内全自治体の加入が実現することになりました。

もうひとつの特徴は、オバマ米大統領が被爆地・広島を訪問されるというところで、「二〇一六年原水爆禁止世界大会」パンフが好評でした。ほとんどの総務課長、議会事務局長が購入いただきました。志賀町では一〇部、能登町では五部購入され、全部で五五部普及できました。

ほとんどの自治体が、平和行進と原水爆禁止世界大会に賛同と協力を約束していただき、要請訪問は大きな励ましをいただきました。

なお、能登町が六月上旬に計画されていた「原爆と人間展」は会場の都合により開催できませんでした。

(原水爆禁止石川県協議会事務局長)

### 二〇一六年

### 原水爆禁止世界大会に

### 非核石川の会 代表派遣を！

派遣費用の募金をお願いします

広島と長崎で原爆投下されて七一年目の夏、『核抑止論』を超えて原水爆禁止世界大会を成功させましょう。

#### 今年の世界大会は広島で開催

八月四日（木）開会総会

八月五日（金）分科会／動く分科会

／フォーラム

八月六日（土）閉会総会

の予定で開催されます。

#### 参加者を募集します

石川県代表団として参加します。

参加ご希望の方は事務局までご連絡をください。

#### 代表派遣費用の募金のお願

代表派遣に必要な費用は約六万円です。

郵便払込用紙を同封しますのでご支援をお願いいたします。

非核の政府を求める石川の会

常任世話人会



石川県原爆被災者友の会二世部会が開いたつどい

### 《被爆二世のつどい》 「記憶を語りつぐため」に 被爆二世の私たちに 何ができるか

五月二二日、松ヶ枝福祉館にて石川県原爆被災者友の会の二世部会結成後四回目となる二世のつどいを、今回は平和サークル「むぎわらぼうし」との共催として開催しました。

テーマは「記憶を語り継ぐために、被爆二世として何ができるか」で、山口被爆二世の会会長の寺中正樹さんと千尋さん夫妻を招き、被爆体験の継承や反原発の取組などの経験を学びました。「二世手帳」を自主製作し、やがて行政へと移行させた実績など

を寺中さんがほんわかとした雰囲気  
で語られ参考になるお話でした。

石川の会からは、親の被爆体験を人形劇で語りつこうと活動を始めた「かたりつぎべ 平和のたね」ユニットの活動を紹介しました。参加者は四〇人でした。

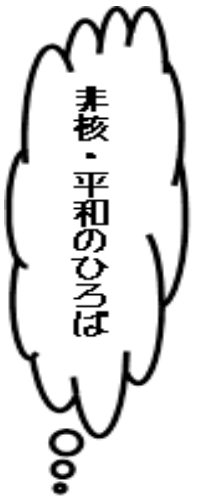
集い終了後、二世同士の昼食懇談会を茶論「花色木綿」に会場を移して交流しました。  
(池田治夫)

#### お知らせ

四歳で被爆の西本多美子さん  
小学生に被爆体験を話します

- ・金沢市諸江小学校  
七月二〇日(水) 四、五、六年生
  - ・金沢市菊川小学校  
七月二三日(土) 一、二、三年生
- 四、五、六年生

広島で被爆された西本多美子さん(石川県原爆被災者友の会会長)が、金沢市内の小学校二校から招かれて自らの被爆体験を児童にお話しされます。



### 核戦争を防止する石川医師の会 第二九回総会を開催 新しい世代との共同を進める

五月二二日、核戦争を防止する石川医師の会第二九回総会が開催された。総会では、白崎良明代表世話人から二〇一五年度活動報告と二〇一六年度活動方針が提案された。

二〇一五年度は、白山市の小中学校に『はだしのゲン』を寄贈したことに加えて、二〇一四年まで「Nuclear Abolition Day」に関連した企画を開催していたが、二〇一五年度からは国連の定める「核兵器廃絶国際デー」の記念企画として、石川県原爆被災者友の会会長である西本多美子さんの被爆証言を聞く会を、国連広報センターをはじめ多くの平和団体の後援を頂いて開催した。また、昨年は安保法制をめぐる情勢の中で多くの市民団体が発足したこともあり、新しい世代との共同の取り組みが印象的な年であった。

に、核廃絶に向けた国際的な流れは「核兵器の非人道性」を重視したものであり、それに呼応した活動が重要になってくるということ。

第二に、チェルノブイリ原発事故から三〇年、東京電力福島第一原発事故から五年の節目の年であることを踏まえ、核・原子力発電所廃炉に向けた活動の企画を検討する。

第三に、医師・歯科医師・医学者として、憲法九条を守り、平和の維持のための責任を果たすための活動を継続すること。この三点を今年度の活動展開における柱として位置づけた。

総会アピールでは、横山加奈子世話人から、東アジア非核地帯構想の実現や核兵器禁止条約の制定に向けた国際的な取り組みの必要性が述べられ、世界中の市民とともに医師・歯科医師・医学者が「核のない世界」を目指すことを宣言した。

被爆の実相を後世に伝え、継承していくためには、長年の平和活動の中で培ってきた力と新たな若い力との共同を進めることが必要不可欠となる。核兵器の廃絶へ向け、医療者こそが率先して平和団体・市民とともに積極的な活動を続けていく必要性を再認識する会となった。

二〇一六年度の活動方針では、第一

(大田健志)

◇講演要旨◇

戦後憲法体制の危機と参議院選挙

法政大学教授 山口二郎



多様な政治参加を呼びかけた山口二郎さん

二〇一五年安保の意義は何だったか

憲法九条が大きな訴求力を持っていることが実感できたことである。二〇〇四年に「九条の会」が発足したときは正直に言って憲法九条が無くなってしまう危機感があった。しかし、今はSEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）や高校生たちが「憲法守れ！」とコールする時代になった。政治参加が選挙や議会の中だけでなく、議会外で自分たちの思いを伝えるために声を出し、実際に多くの人たちが国会行動やデモに参加するようになった。気軽にデモするように政治参加の敷居が下がったことは、日本の民主政治の大きな前進である。

若者はなぜ立ち上がったのか

彼らは中高生のときに三・一一を体験しており、そして福島原発事故に対する大人社会（政治）への憤り、公憤がある。震災・原発被災者への優しさや憤り、この二点が見る座標軸になっている。自分の言葉で語る世代であり、新しい市民的政治文化の誕生である。

哲学者の和辻哲郎は著書『風土』で次のように記述している。

「前者においては公共的なるものへの無関心を伴った忍従が発達し、後者においては公共的なるものへの強



5月29日、いしかわ市民連合大集会&デモに参加する山口二郎さん（左から2人目）

い関心関与とともに自己の主張の尊重が発達した。デモクラシーは後者において真に可能となるのである。」

忍従の精神から公共人としてのデモクラシーが日本にも出現した。

北海道衆院五区補選の教訓

北海道衆院五区補選の出口調査によると、支持政党の割合は自民・公明が四九%、民進・共産・社民が二六%である。従来だったら無風選挙だが、野党が結集できたことにより接戦に持ち込んだ。「野党結集 vs 自民党」という分かりやすい対決構図を描くことができ、SEALDsや安保関連法に反対するママの会など多様な層が政治に参加した。野党結集に共産党が入ると民進党支持の保守層が離れるという意見があったが、選挙結果を見ると支持離れは起きていない。

一方、野党結集により自民党、公明党も引き締まり、支持層固めを強化した。政党支持別投票動向では、各党支持者は九割以上固まっていたが、支持者なし層（二四%）のうち野党統一候補に七割の人が投票している。この支持者なし層、無党派層にどのように選挙に行ってもらおうのかが焦点である。



戦いはこれからだ

今回の補選の投票率は五七・六%だったが、これを六〇%台に乗せれば野党統一候補が勝利する可能性がでてくる。六〇%台に上げることが不可欠である。

全国三二ある一人区全てで野党共闘が実現できたのは、戦後政治でも画期的で市民の力が野党を後押しして実現できた。野党結集は目的ではなく、戦いのスタートラインである。

投票日まで五〇日余り、私たちにできることはたくさんある。知り合い、友人に「選挙に行こう!」「市民が変われば政治が変わる」と声をかけるなど多様な政治参加により、選挙を盛り上げていこう。

◎本稿は五月二九日、石川県教育会館ホールでの山口二郎氏の講演要旨の一部（後半の参議院選挙に向けて）です。主催は安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める!いしかわ市民連合。

## 非核石川の会 リレーエッセー

### 「人を殺すこと」と心の傷

小牧純爾

戦うことは人間の本能だとデータラメを言う人がいるが、人を殺したり、人の殺されるところを「つぶさに」目撃した人が、心に深い傷を負うことは確かな事実である。研究者によって推定に幅があるが、ベトナムから帰還したアメリカ兵の一八%から五四%がPTSD、つまり、後トラウマ・ストレス障害を発症しているという。アフガニスタンやイラクに派遣されたアメリカ兵もほぼ同じ率で障害をこうむっているようだ。

人には殺人にかかわることを忌避する強い「本性」が備わっている。この本性に反する体験は人の心を傷つけ、廃人同様にしてしまう。

心の傷は殺人の「直近性」で程度が決まるようだ。自分の手で相手を殺した将兵の心の傷が一番深い。それにくらべ、遠くから敵を殺す砲兵や爆撃機の搭乗員の心の傷は浅い。後方で戦闘を指揮する司令部の将兵はほとんど傷つくことはない。ただし、殺戮との直接的なかわりが薄かった将兵で

も、殺戮の「ありのまま」を目撃すると、強いトラウマを体験することになる。

戦争は死傷者を生み出すだけでなく、生き残った五体満足な将兵に精神的な障害を与え、廃人同様にリスクをつくり出す。アメリカでは毎年二五〇名以上の帰還兵が自殺していると伝えられている。

最近の戦争では、ドローンや無人戦闘機を操って遠くから攻撃することが多くなっている。戦闘の後方司令部化である。遠隔操作の爆撃は、戦闘員のモニター・スクリーンでは、無音の爆発映像として現れ、すぐに消滅する信号に過ぎない。しかし、現実の爆撃地点では、バラバラになった遺体が散乱し、黒焦げ遺体が耐えがたい匂いを発し、戦傷者の叫喚の音が響いているはずなのである。

戦争のIT化は、相手からの直接的攻撃を避けるとともに、攻撃された側の惨劇を直接に見たり聞いたりする機会をなくし、戦闘を「遠隔化・抽象化」する。

戦争の本能は人殺しである。人殺しは人の本性に反し、PTSDを誘発するリスクがある。帰還兵のPTSDを深刻な問題と考えるのであれば、根本的な原因である戦争を止めるのが本

筋である。IT化した攻撃は戦闘員に「それとは分らない」ように殺人を犯させているのであり、戦闘員の「心の平安」は仮想的で一時的なものに過ぎない。

戦争のIT化に欺かれかねないことでは、私たちも例外ではない。私たちはシリアなど、いま世界の各地で起こっているむごたらしい戦闘の実態をくわしく知る機会を閉ざされている。国際的な人権団体や勇氣あるジャーナリストのレポートに常に耳を傾けていたい。

### 「母と暮らせば」を観る

島 隆雄

広島を舞台として井上ひさしによって書かれた戯曲「父と暮らせば」と対になる形で山田洋次監督によって作られた映画「母と暮らせば」が二〇一五年末に公開されました。

「父と暮らせば」では原爆の悲しみを乗り越えて生きていく娘の姿に勇氣を与えられます。一方、「母と暮らせば」では、おそらく残留放射能による原爆症によって命を奪われてしまいう母は、ラストシーンではあの世で息子と再会するという構成になっています。人間にとって避けられない死に



向かっていくファンタジーのような表現は、印象深く心に残るものです。亡霊として母の目の前に現れた息子の言葉はとりもなおさず母のもうひとつの気持ちを表しています。ただ、「原爆で死んだのは自分の運命なんだ」と語る息子に対して、「地震や津波ならあきらめもつくけれど、原爆は人間がつくったもの」、それを諦めるなんてどうでいきなないと否定する場面があります。この場面がいちばん心を打ちました。

長崎だけあって、クリスチャンとして母が毎日キリストに祈りを捧げる場面が何回も出てきます。宗派や教義は異なつたとしても、同じクリスチャンの上に原爆を投下することになるのを当時のトルーマン大統領が想像していたのだろうか?と思いました。合衆国のとつた戦略はそういう意味でも罪深いものだと思います。

いずれにせよ一瞬のうちに何千何万の人々を殺傷する能力を持つ核兵器をなくし、戦争のない安心して暮らすことのできる社会を作っていかなければならないと、思いを強くすることのできた映画でした。

### 詩人会議かなざわ「独標」より

#### 新顔番号カード

新保 美恵子

(ピーツ もう一度やり直して下さい)

たたみ一畳分の箱物

窓はない

スマホ似の監視カメラが二台

(ピーツ 本人確認ができません)

——俺だよ 俺 コマツのマツゴロ

ウだよ

白髪混じりの顎髭メガネ男が叫ぶ

(ピーツ 本人確認ができません)

書留は頼みもしない郵便物

渡す側がご丁寧ならば

受け取る側もうやうやくしくシャチハ

タを押す

財布はカードだらけ

キヤッシュカードに診察カード

安売スーパーのポイントカードの面々で

膨れ上がり

肝心要のお札はどこへやら

新顔番号カードの入る余地など

どこにもない

番号は行儀がいい

横一列にあるいは縦一列に

はみ出したりはしない

号令をかければ動き出す

秘密裡に振り分けられ

当てがわれた番号も また

住所氏名は言わなくてもよい

番号を入力すれば

(ピーツ 本人確認ができました

合図を指示します)

顎髭を削り落としメガネをはずした

のつぺらぼうが歩き出す

イチ ニ イチ ニ イチ ニ

### 《編集室より》

◎中部空港に各国の政府特別機が勢揃いしたという報道を見たが、ここから一連の「演出」が始まったようだ。オバマ米大統領は伊勢志摩サミットに先立って訪問したベトナムから二五日に志摩観光ホテルに到着した。

NHKは——伊勢志摩サミットを終えたオバマ大統領は、現職のアメリカの大統領としては初めて被爆地、広島を訪問するのを前に、山口県にあるアメリカ軍岩国基地を訪れ、兵士らの前に「私はこれから広島を訪れる。第二次世界大戦で命を落とすすべての人を追悼する機会になる」と述べました。——と報道した。(傍点筆者)

日本には安保条約のもと米軍が駐留し、その最高指揮官でもある米大統領。これは定式化された「演出」なのかメディアも取りたててスポットをあてないが、米軍基地から飛び立った爆撃機の原爆投下によって広島・長崎の人々は命を落としたのであった。

原爆発射装置として機能する米軍基地が導入部となって、伊勢志摩サミットに続く被爆の追悼が「演出」されたことが悲しい。(一)

◎非核の政府を求める会は、今年結成三〇年を迎え誓い新たに「国民のみなさんへの訴え」を発表しました。

「核兵器廃絶」は国際政治の目的として合意され、国連加盟国の圧倒的多数が核兵器全面禁止条約の交渉開始を求め、核保有国に決断を迫る状況にあると指摘。米大統領の広島訪問を機に国際交渉開始に背を向けてきた態度を改めるべきと主張。

安倍暴走政治は急速に矛盾と孤立を深めており、「違憲の戦争法は廃止」「海外で戦争する国づくり許すな」の声を全国から大きく巻き起こし、今夏の参院選と次回衆院選を安倍政権退陣の確かな一歩にしよと呼びかけています。

詳しくは全国の会ニュース今号をお読みください。(平)

◎二〇一六年度平和事業に関する自治体アンケート集約結果「がまとまりました。本紙に同封します。

今回のアンケート集約結果とコメントを非核の政府を求める石川の会HP (<http://hikakuishikawa.com/>)に掲載しました。

アンケートにご協力いただいた県内各自治体担当課の皆様にご感謝申し上げます。

今回の調査により、未加盟だった加賀市、能美市も平和首長会議に加盟することが確実となり、年度内には県内すべての市町の加盟が実現します。

今後は、平和首長会議加盟の「量的拡大から質的向上へ」各自治体における非核・平和施策の拡充・具体化が課題になります。当会では非核・平和施策の充実をもとめて、各自治体担当課への取材・懇談や調査活動を継続していきます。(か)

「被爆者が描いた体験画展」21

石川県原爆被災者友の会

中田喜重

「電車道の石畳」

身内の迎えを待つ、無数の骨、骨、骨。身に着けていたものは、たったこれだけ。

命を守るはずだった防空頭巾。

その一滴が渴きを癒し、その命の灯を消した水筒。



広島 百メートル道路附近

倒壊した家屋から這い出し、なんとか火災から逃れてきた人々が、建物の強制疎開によりできた百メートル道路まで辿り着いたが、精根尽きて倒れてしまった。

側を通る人が男ならば、誰に向かっても「兵隊さん」と呼びかけ、女ならば「看護婦さん」と叫んで水を求めていたが、水を与えると死んでいった。



絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

坂本朋子



(1997年7月7日、撮影：中田喜重)

《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	内容	場所
6	~24日(金)まで			2016年原水爆禁止国民平和大行進・県内行進中	実行委員会発表の日程でご確認を
	22	水	12:50	戦争法廃止・昼デモ	金沢市四高記念公園・教育会館前口
7	2	土	10:00	むぎわらぼうし例会 「戦争に翻弄された私の青春」語り部 蔵野花枝さん	金沢市松ヶ枝福祉館4階集会室
	6	水	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	15	金	13:00	沖縄連帯宣伝行動	金沢市武蔵町Mza前
	24	日	10:00	「反核・平和おろづる市民のつどい2016」	金沢市卯辰山公園 平和の子ら像前広場
	29	金	18:30	2016年原水爆禁止世界大会学習と壮行会	金沢市京町勤医協会館
	31	日	10:00	2016年いしかわピース9フェスティバル	白山市美川文化会館ホール
8	3日(水)~17日(水)			反核・平和おろづる市民のつどい実行委員会 「原爆と人間展」&「ちひろの平和のパネル」	石川県庁19階展望ロビー
	4日(木)~6日(土)			2016年原水爆禁止世界大会in広島	広島市
	6	土	14:30	医療・福祉問題研究会総会記念講演 (講師 河合克義さん)	石川県社会福祉会館4階中ホール
	8日(月)~9日(火)			2016年原水爆禁止世界大会in長崎	長崎市
	9	火	12:30	核兵器廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵町Mza前
	15	月	13:00	沖縄連帯宣伝行動	金沢市武蔵町Mza前
	20日(土)~21日(日)			2016年日本母親大会in石川・福井 (詳しくは実行委員会へ076-216-8022) 同上記念講演 いのち輝く平和な沖縄・日本を 講師 島洋子さん=石川県産業展示館4号館	
	29	月	18:30	2016年原水爆禁止世界大会報告会	金沢市京町勤医協会館

\* 祝日は休日としています \* 毎週金曜日18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口

\* 昼デモ 隔週水曜日に行動